

礼拝

令和8年4月13日
1号



環境を整え 素晴らしい一年にしよう

～三毒への気づきと自己内省～

いよいよ令和八年度が始まりました。こんな一年にしたいという願いをもって、新年度を迎えていることと思います。宗教礼拝の時間では、明るく・正しく・仲よい学校生活を送るための手がかりを、仏さまの教えをもとに皆さんにお伝えしていきます。

「環境を整える」と言われると、何を思い浮かべるでしょう。掃除をして教室をきれいにする、落ち着いた状態で授業を受ける、周囲への配慮を心がけよりよい友人関係をつくる…。自分の周囲が環境であり、また自分も環境の一部です。から、まずは自分自身を見つめることが、環境を整える上で最も大切なことになります。お釈迦さまが説か

れた言葉に、「鑄(き)は鉄より生ずれど、その鉄を傷つけるがごとく、不浄(けがれ)ある行者(ぎよ)は、おのれの業(わざ)により悪処(あくじ)にみちびかれん」という詩句があります。これは、「不平や不満、悪口を言うことでストレスを発散しているつもりでも、それは自分自身を滅ぼす元になる」という意味です。いつも悪口を言っている、悪口を言う人が集まりやすく、今度は自分が悪口を言われているように思い疑心暗鬼が生じ、環境をどんどん悪くしていきます。仏教では私たちのことを「煩惱具足の凡夫(ぼんのうぐそくぼんご)」と表現し、「私たちは煩惱の塊であり、煩惱を取ったら何も残らない存在である」と説いています。煩惱とは三つの毒と言われ、

- ・ 何でも自分の物にしたいと思う欲の心 (貪欲・どんよく)
 - ・ 欲を妨げられて生まれる怒りの心 (瞋恚・しんに)
 - ・ ねたみやうらみ、そねみの心 (愚痴・ぐち)
- のことを指します。これらの心が止むことなく、それらを断ち切れないのが私たち人間なのです。

「昔、何よりも遊ぶ事が好きな男がいた。親から受継いだ財産のほとんどを遊びで失い、木も生えていない山だけが残った。大雨が降れば崩れると言われ植林

することになったが、男の所持金では苗木が買えない。途方にくれていた時、苗木をタダでくれるという窮鬼(きぎ)と名乗る人が現れた。タダであげるが、この三種の肥料を朝昼晩、欠かさず苗木にやるのが条件だと言った。男は喜んで窮鬼の言った通りに肥料をやり続けた。ある夜、苗木がザワザワして勢いが出てきた。男は根が着いたと喜んだ。次の朝、肥料をやりに行くと言った。そう、苗木は「朝寝」「昼寝」「宵寝」という根(ネ)を張り、夜になると勢いが良くなるのである。しばらくして芽(メ)が出てきた。イジメと言う芽(メ)である。それでも男は気づかずに、肥料をやり続ける。おかげで木は大きく育ち、ついに喧嘩(ケン花)という花を咲かせた。花の後にはうらみ、そねみ、ねたみという実がなった。男は初めて三つの肥料を確かめた。一つ目は貪、二つ目は瞋、三つ目は痴と書いてあった。苗木の環境はすっかり貪・瞋・痴の三毒に汚染され、気付いた時には、貧乏(貧棒)と言う木になった。これを難木(難儀)という。」

環境を悪くするきっかけはすべて私たちの内側にあり、それらに気づくことが環境を整える第一歩なのです。まずは自身を振り返り、素晴らしい一年にしよう。